

2020年3月31日(火)

老球の細道533号

## 3月の言葉

会津バスケットボール協会 室井 富仁

こんなに長い期間バスケットボールができないのはアキレス腱断裂で休んでいる時と東日本大震災以来である。いつから思い切ることができるのか不明な日常が続く。私は普段とかわらないのだが、日本、世界の情勢が日毎に悪化する。3月は本来新年度に向けての希望の準備期間となるべきなのに残念である。しかし、希望を失ってはいけない。かのニュートンはペスト流行時に雑事から解放され「万有引力の法則」を発見したという。

「何にもないコロナの日は 準備、準備と根を下ろせ 明けない夜はない」

### 1・テレビから

◆「間違わなければ前へ進めない」〈BS 東京：昭和のいい話・武田鉄也〉：司会の武田鉄矢の博学と表現力の豊かさに驚愕しながら見ている。他人の間違いを攻め、自分の間違いを認めない人が多すぎる昨今。間違いを恐れず、間違ったらやり直し。バスケットも同じ。

### 2・読書から

◆「ことプレイに関しては、“そうすまい”とブレーキをかけるよりは“こうしよう”と、別の方向にアクセルを踏み込む方が、うまくいくことが多い」〈野村克也著『野球は頭でするもんだ〈下〉』朝日文庫〉：ゲームここ一番の重要な場面におけるコーチのアドバイスで真価が問われる。ブレーキはミスを恐れる心からくる。積極的ミスは学習することができ次に生かせる。消極的ミスは悔いだけが残る。

◆「発達は階段状に進む。子どもの発達は各駅停車である」〈市川純夫著『発達を見る姿勢』学文社〉：孫たちの自転車、フラフープ、前転、ドリブルなどの向上を見ているとよくわかる。今できないことでイラつく前に子どもの発達の原則をいつも頭に置きたい。災害と進歩はある日突然やってくる。

◆「全然こわがることのできない人を勇敢だとは言えない。勇敢な人というものは怖れを感じても平然としている人のことである」〈今道友信『人類の知的遺産・アリストテレス』講談社〉：危険から離れている時は元気だが、それが近づくとパニックになることは避けたい。

### 3・新聞から

◆「幸せに感謝するのではなく、感謝することが幸せだ」〈朝日：ひととき〉：ノーベル平和賞受賞者故マンデラ氏は獄中で憎しみから感謝の哲学に変化して人間性が一変したという。

◆「桜ばないのち一ぱいに咲くからに生命をかけてわが眺めたり」〈朝日：折々のことば・岡本かの子〉：毎年眺める桜。ある時から「死ぬまであと何回見れるだろう？」と考えたときから桜に対する想いも変わった。そして毎日何気なくやっている雑事にも。無常迅速。

◆「お前には心はかけたけれど、手はかけなかった」〈朝日：かあさんのせなか・養老孟司〉：息子たちに何度も言われた「手をかけてもらえなかった」。言い訳「心はかけたけど！」。